

気候市民会議 実践ワークショップ

～日本と英国の地域における開催事例を中心に～



事例報告

あつぎ気候市民会議

2024年3月14日

あつぎ気候市民会議実行委員会
一社) あつぎ市民発電所

遠藤睦子



主催者の紹介

一般社団法人あつぎ市民発電所



2020年1月 1号機通電式 厚木市飯山

気候危機を回避し・原発に頼らない社会を目指そう、と6年前から活動している市民団体です。

市民の手で再生可能エネルギーの地産地消や農業の活性化にチャレンジしています。さらに脱炭素でくらしやすいまちづくりを市民みんなで！

理事長 遠藤睦子

2021年末～
2022年

しかし 再エネ発電所普及拡大は停滞中・・・
厚木市でもなかなか脱炭素の進展がみえにくい

2021年2月 市長が「ゼロカーボンシティ宣言」
2022年度の施策 カーボンニュートラルロードマップ策定・
地球温暖化防止対策計画改定（⇒2023年度から実施）

次のステップに踏み出せる起爆剤？ 厚木市で**気候市民会議**をやってみたい

「市民協働提案事業」に応募してみよう

事業目的：厚木市が策定しているCNロードマップを実現させるために気候市民会議をやろう

2022年5月応募 市の態勢もかなり前向きになり

「市民が作るアクションプランを市が公的なアクションプランとして受け入れる」と約束！

⇒2022年10月 市民協働事業として採択 2023年度の1年間の事業として決まった

気候危機を回避し、豊かで暮らしやすい厚木の未来を創ろう！

企画概要

あつぎ気候市民会議の枠組み



主催：あつぎ市民発電所&厚木市
連携：環境政策対話研究所
協力：IGES,神奈川県環境科学センター

資金調達・会計管理

必要経費：600万円程度
参加市民への謝礼、情報提供者・
講師への謝金、実行委員会スタッフ
報酬

市民協働から200万円
民間助成金 ラッシュジャパンより約
200万円（2023年2月から 準備
段階をカバー）
地球環境基金より
（上限）250万円
計650万円



アドバイザー

メインファ
シリ

会議録
専任者

行政との関係：市民協働によるメリット

- ・成果物「アクションプラン」を市の公式プランに受け入れる
- ・無作為抽出を担当
- ・事業の信頼性、広報効果、会場提供などなど
- ・内容は基本的に実行委員会に任せる
- ・行政サイドに市民の本気度を伝える！ いっしょにやろう！
民主主義の新しい形

参加市民

無作為抽出で3000人 16歳～74歳 男女 10地域
⇒ 52人でスタート

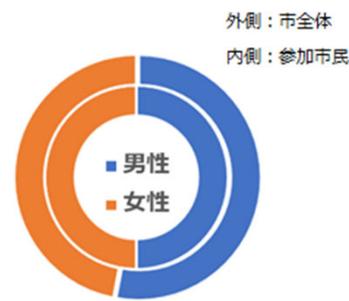
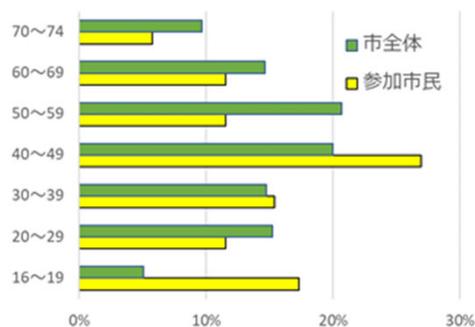
実行委員会スタッフ：ほとんど普通の市民

市民（発電所会員、農援隊の仲間たち、市民活動を担う方々・・・）に呼びかけ
市内外大学に相談・ご協力の呼びかけ 市内企業にも少し呼びかけ
アドバイザーからのご紹介
2023年1月実行委員会準備会のキックオフMTG
ファシリテーター研修：環境政策対話研究所に主催していただく
2023年4月正式に始動（守秘義務を伴う就任依頼⇒承諾書）44人登録
統括チーム、運営チーム（事務局）、広報チーム、ファシリテーター、サポーター

企画概要

参加市民の構成

支えた人々



市全体と参加市民の年齢構成

市全体と参加市民の性別構成

専門家、アドバイザー

会議回数	氏名（敬称略）
1回目基礎知識	江守正多・東京大、渡部厚志・IGES
2回目地域状況	新井聡史・県環境科学センター、前場徹・厚木市都市計画、山崎尚裕・厚木市環境政策
3回目4テーマ専門	松原弘直・ISEP、梶田佳孝・東海大、山本佳嗣・東京工芸大、村上千里・消費生活AD
4回目テーマ別情報提供者	あつぎ市民発電所、たんたんエナジー、小田原市、日産自動車、MONET Technologies、神奈川中央交通、エコ窓普及促進会、地元建築家、地球環境研、不耕起栽培実践者
5回目普及に関するシンポジウム	浅利美鈴・地球環境研、二ノ宮リムさち・東海大、岩崎茜・東京大、鈴木秀顕・松蔭大
全体アドバイザー	柳下正治、村上千里、三上直之・環境政策対話研、竹井斎・脱炭素かわさき市民会議委員長

実行委員会

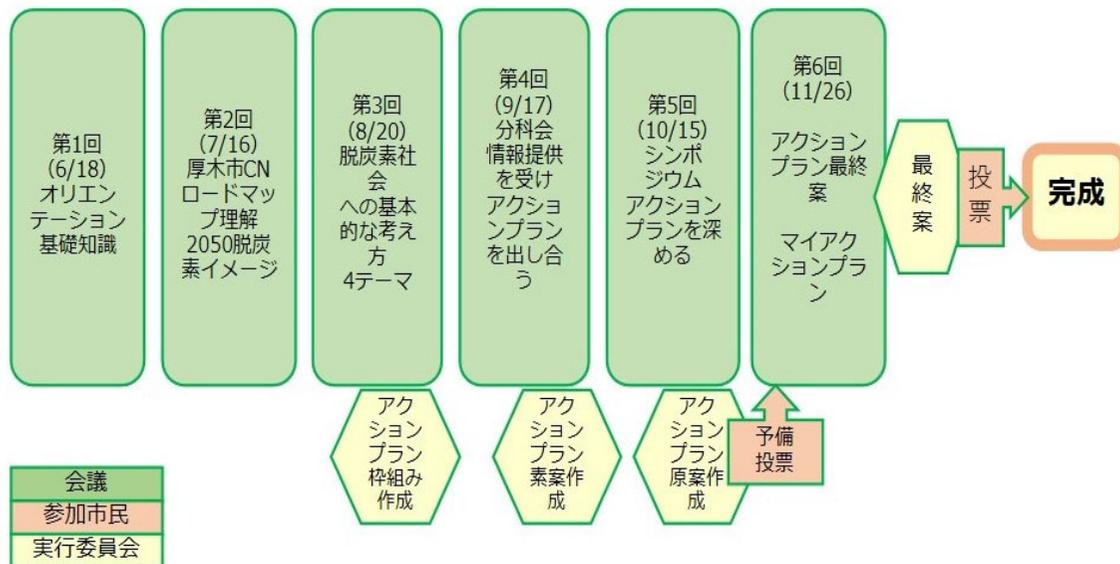
- 【統括チーム】 5人
- 【運営チーム】 6人 + サポーター5人
- 【広報チーム】 5人 + 参加市民イラストレーター1人

- 【メインファシリテーター】 岩崎茜
- 【ファシリテーター】 13人 + サポーター6人
- 【会議記録】 2人



会議設計

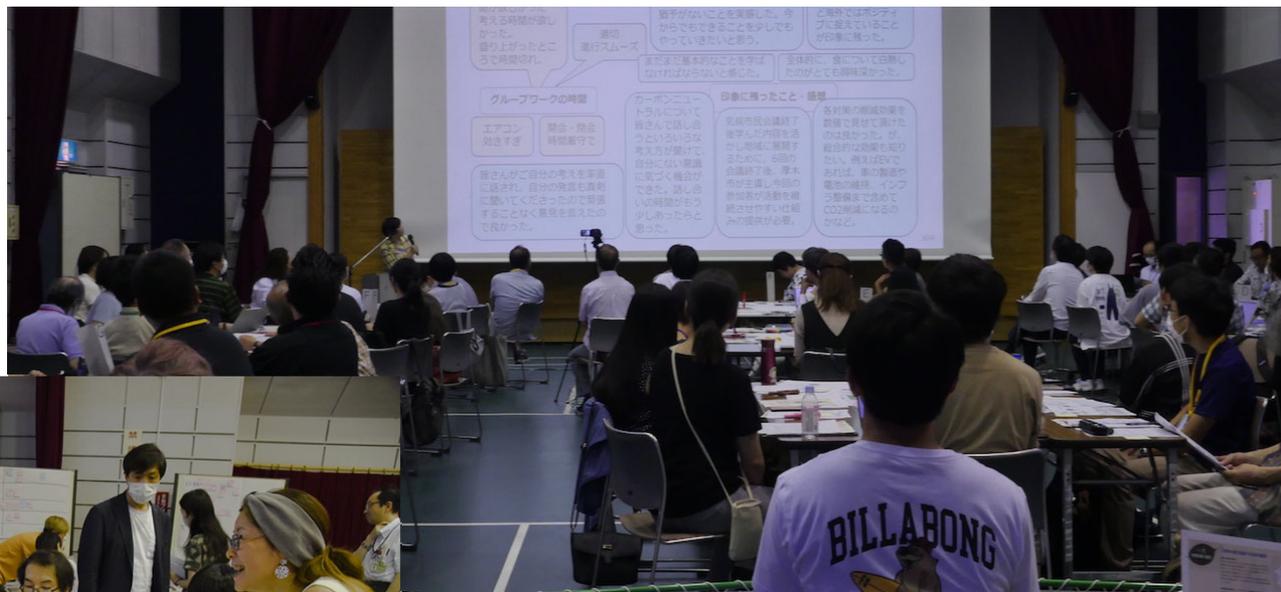
脱炭素市民アクションプラン in あつぎ 完成までの流れ



「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」を作り上げるうえで注意したこと

- “気候危機を回避し、豊かで暮らしやすい厚木の未来を創ろう”が目的。
- 「厚木市カーボンニュートラルロードマップ」を必ず実現させる。社会・経済・価値観の大転換が必要。
- 2050年の脱炭素した世界をイメージし「バックカasting」で考えよう。
- 公正・公平であること、だれ一人取り残さない。
- 無関心の人でも普通に暮らしていて脱炭素になるような「仕組みをつくること」を目指そう。
- アクションプランの主語は「市民」であること。市民が行うことや、市民が行いたいがそのために必要な条件として行政や事業者にも協力を求める、という内容を考えよう。

会議風景



第2回会議2023.07.16



第1回会議2023.06.18

会議の成果

5つの章 合計74項目のアクションプランを記載

第1章 再生可能エネルギーの
地産地消

第2章 移動・まちづくり

第3章 省エネ・住まい

第4章 消費・食・農・廃棄

第5章 「脱炭素市民アクション
プラン in あつぎ」を具体
化、実践、定着していく
ための取組み



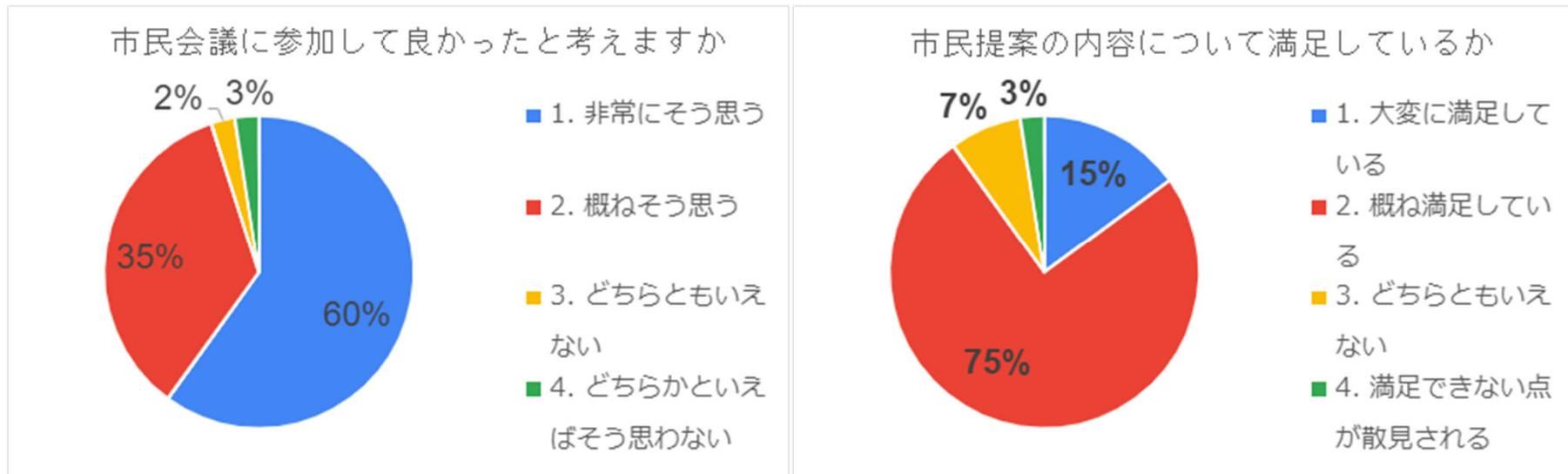
イラスト制作：参加市民の菊地栞さん 9

あつぎ気候市民会議 終了 2023年11月26日



アンケート結果の概略と 会議振り返り

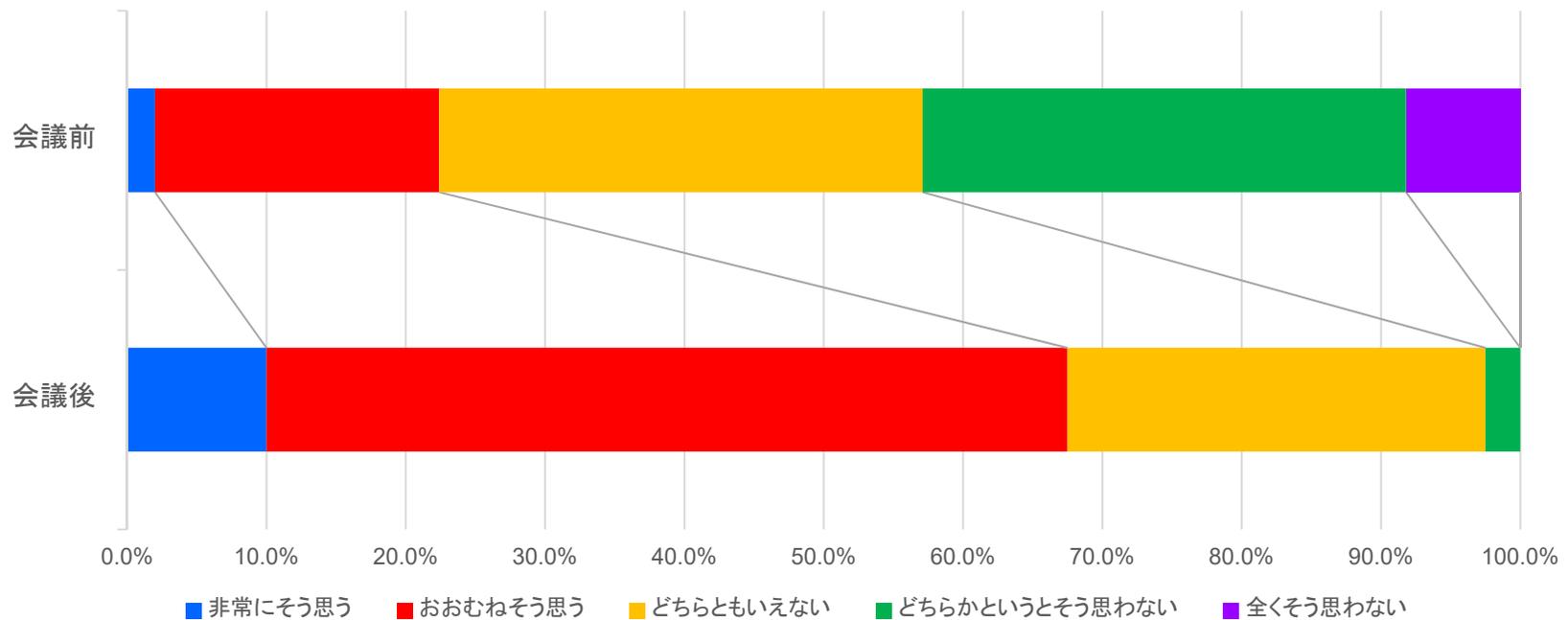
振り返りアンケート回答者数：48名中40名から回答



- 【理由】 ①知識・理解の向上（刺激や気づきを含む）
②意識・行動の変化
③交流・つながりの構築

アンケート結果の概略と 会議振り返り

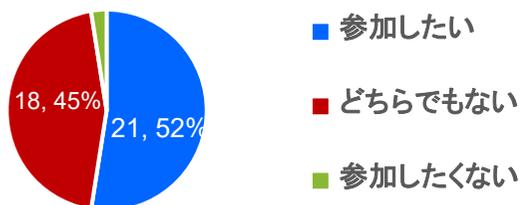
脱炭素社会の実現に向けて、日々の暮らしや地域社会などで、
どのような取り組みや施策がなされるべきかを明確に認識している。



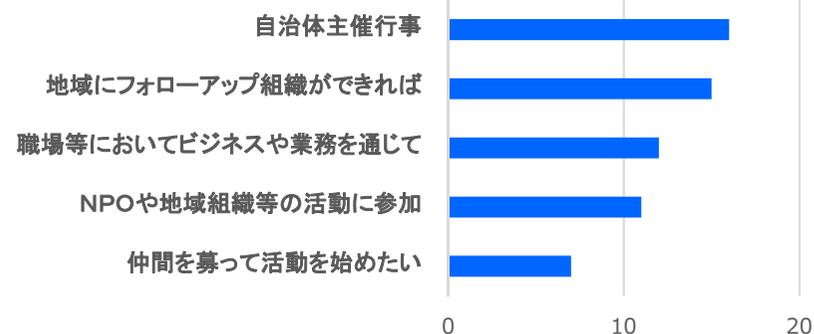
アンケート結果の概略と 会議振り返り

脱炭素社会の実現に向けた取組みについて

アクションプラン取組み具体化に向け
た活動に参加してみたいですか



「具体化に向けた活動に参加したい」選択の21人中人数



【統括チーム反省点の一部】

- ◆ 熟議に至っていない
 - グループ討議の時間不足
 - 反対意見や疑問が呈されなかった意見はそのままアクションプランになっている
 - ファシリテーションの課題
 - 意見の強い人に引っ張られる
- ◆ 情報提供は質・量ともに適切であったか
 - グループ討議に大きい影響を与える
 - グループ討議の時間を圧縮してしまう
- ◆ グループ討議内容の共有化から最終アクションプラン案作成までのプロセス
- ◆ 実行委員会の運営上の課題

次に向けた提案

2月17日
報告会で
さっそく実現

第5章 脱炭素アクションプランを具体化、実践、定着していくための取組み

- (1) 市民協働の継続
- 2) 市民協働の連携体制構築

市民は市民協働を継続し脱炭素市民アクションプランの実践に取り組む。

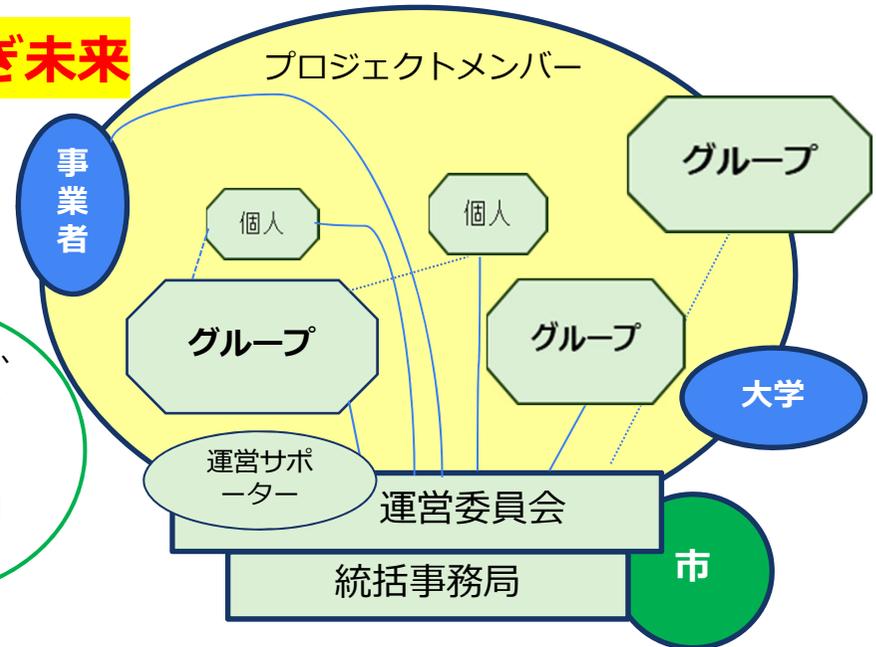
市民と市は連携体を作り、協働によりカーボンニュートラル実現を早く確実に達成することを目指す。

新規連携体：カーボンニュートラルあつぎ未来プロジェクトを立上げ

- ◆ アクションプランの普及
- ◆ 具体的なアクションを始める、アクションを支援する：アクションしたい人が相談協力しながら動けるようなゆるやかな仕組み
- ◆ つながる（地域内、他地域と）
- ◆ 進捗評価
- ◆ 市との情報交換・意見交換・提案

あと2年は厚木市市民協働提案事業として
その後も継続できる方法を探る
資金調達も含めなるべく市民独自性を維持したい

会議参加市民、
実行委員会ス
タッフ市民
未来プロジェ
クトへの参加
意思表示あり



組織イメージ



市民レベルの無謀なチャレンジでしたが
多くの皆さまのご支援とご指導をいただき
なんとか1つの成果に到達できました。
深く感謝いたします。
次を拓く者たちがつながりつつあります。
前途多難ですがさらなるチャレンジを！

ご清聴ありがとうございました



[あつぎ気候市民会議【厚木市市民協働提案事業】\(google.com\)](#)



[『あつぎ気候市民会議』報告書 統合0122_07L.pdf - Google ドライブ](#)

